



令和6年度

男女共同参画社会 に向けての意識調査

概要版



令和7年3月

福岡県人づくり・県民生活部 男女共同参画推進課



目次 index

1	回答者の特徴	1
2	男女の地位	2
3	家庭生活	4
4	育児や介護	6
5	職業	7
6	地域活動	9
7	政治分野における男女共同参画	10
8	悩みを相談する体制	11
9	配偶者などからの暴力について	13
10	男女共同参画社会の実現	16
11	男女共同参画センター	17

調査の目的

この調査は男女共同参画社会（男女が、お互いの人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会）の実現を目指し、さまざまな取組みを進めるために県民の男女共同参画に関する意識と実態を把握し、今後の施策に反映させることを目的として実施しました。

調査の性格

- 調査地域 福岡県全域
- 調査対象者 18歳以上75歳未満の男女3,500人
- 調査方法 郵送による配布、郵送・WEB併用回収
- 調査期間 令和6年12月4日(水)～令和6年12月31日(火)
- 回収率 有効回収数845人（有効回収率24.1%）

※政令指定都市以外の地域は、抽出率に2倍の標本数を割り当てたので、集計にあたっては福岡市、北九州市を2倍に加重集計し、最終的に各地域の抽出率が同じになるようにしたため、集計回答総数は1,189となっています。

※回答率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は100%にならないことがあります。

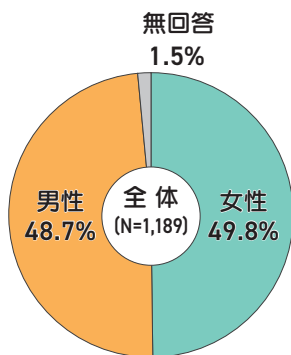
※本文中で参考として使用しているデータの出典は

- 前回調査 「男女共同参画社会に向けての意識調査」
（令和元年度 福岡県人づくり・県民生活部男女共同参画推進課）
- 全国調査 「男女間における暴力に関する調査」（令和5年度 内閣府）
「男女共同参画に関する世論調査」（令和4年度 内閣府）

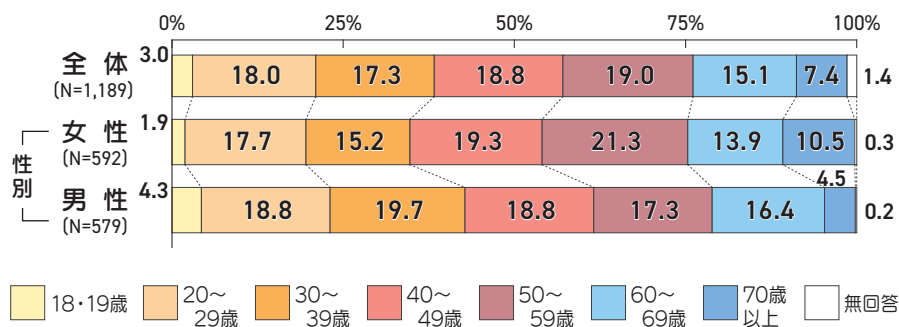
01 回答者の特徴

- ・ 回答者の性別は、「女性」49.8%、「男性」48.7%。
- ・ 年齢区分では、女性は「50代」が21.3%、男性は「30代」が19.7%で最も多い。
- ・ 配偶関係は、55.0%が配偶者（パートナー）有、そのうち共働きが63.2%、片働きが26.9%。

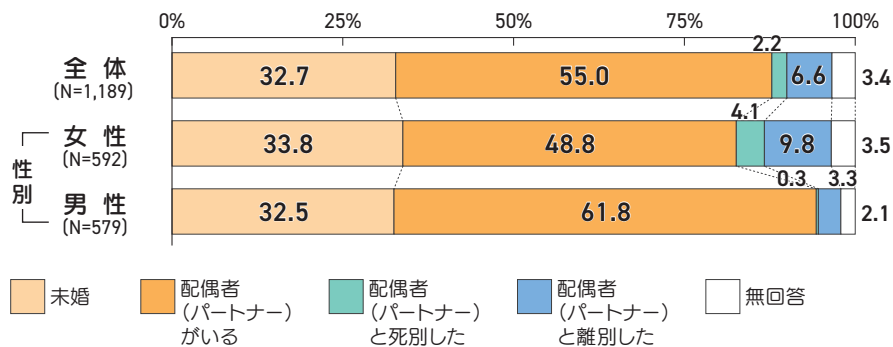
性別



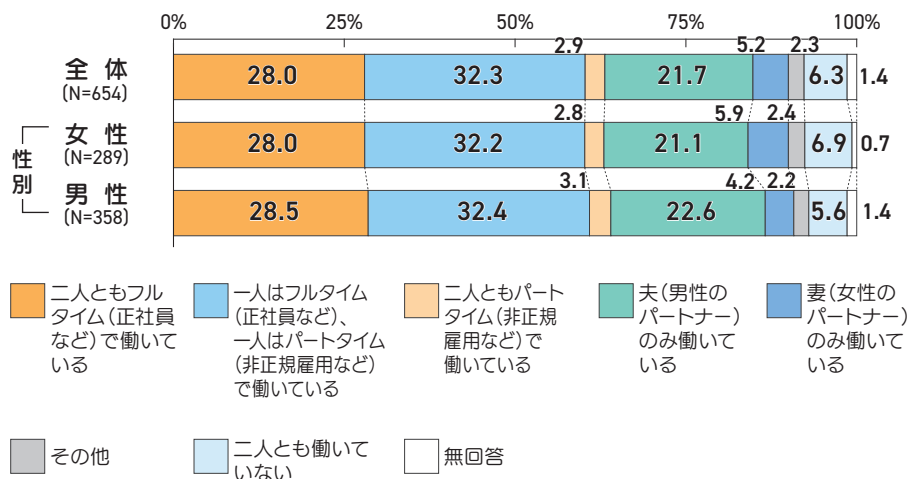
年齢



配偶関係



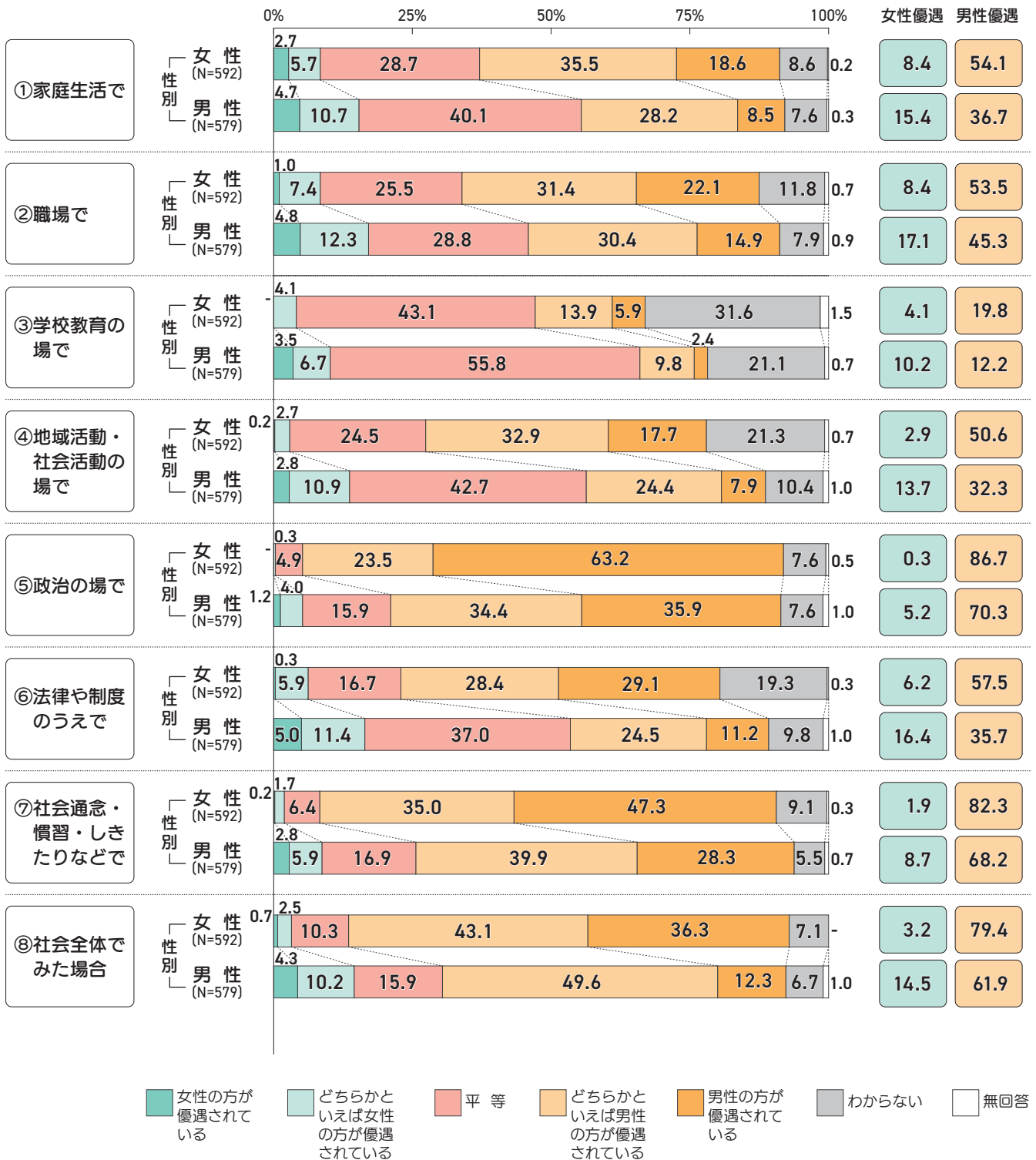
就労状況



02 男女の地位

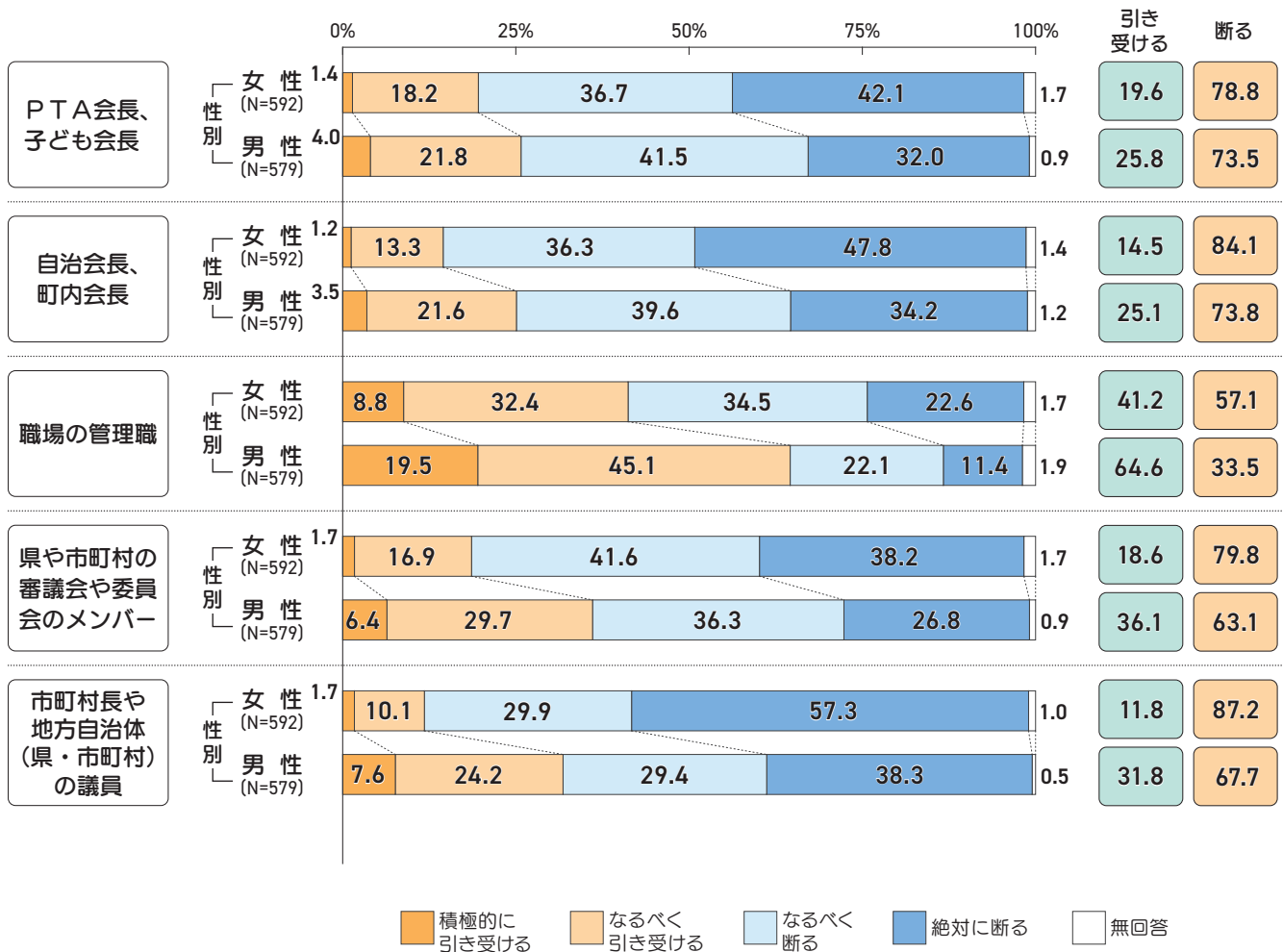
● 男女の地位の平等感

- ・『男性優遇』は、すべての質問項目で、女性は男性よりも多い。
- ・「政治の場」では、『男性優遇』が、男女ともに70%以上。
- ・「職場」「学校教育の場」以外では、『男性優遇』は、女性が男性よりも10ポイント以上上回っている。



● 役職や公職に就くことについて

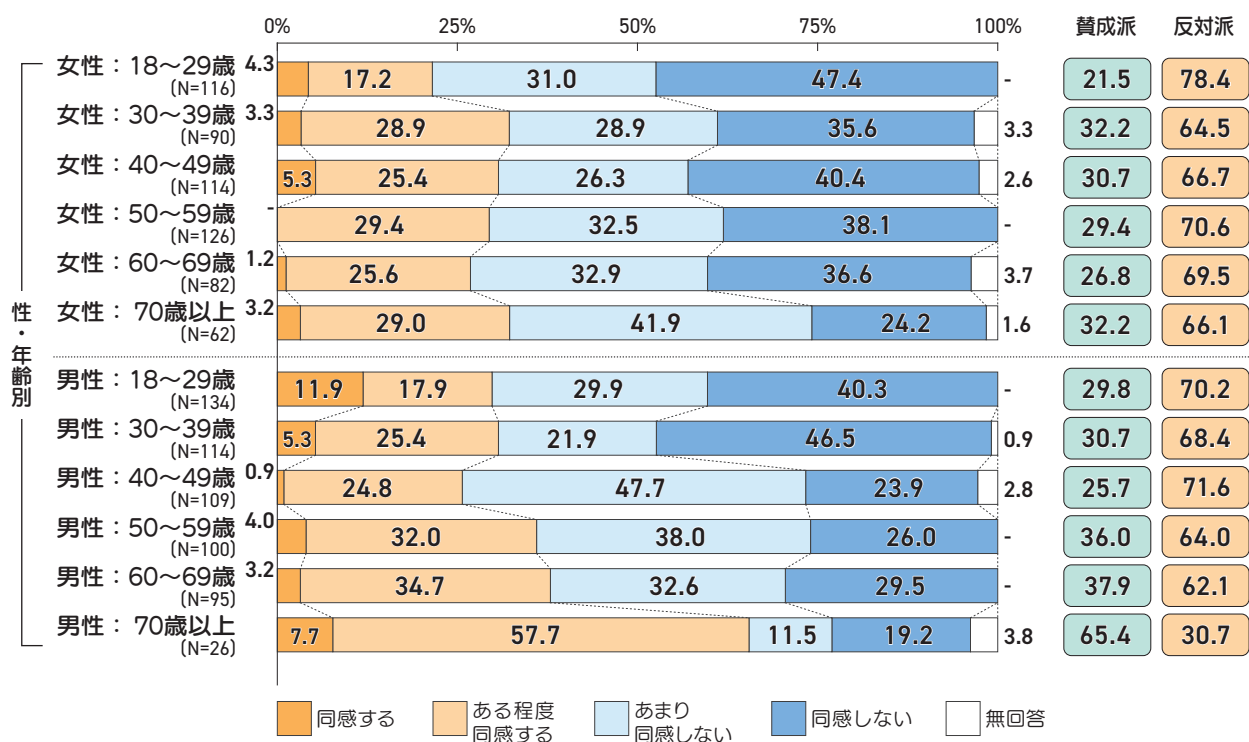
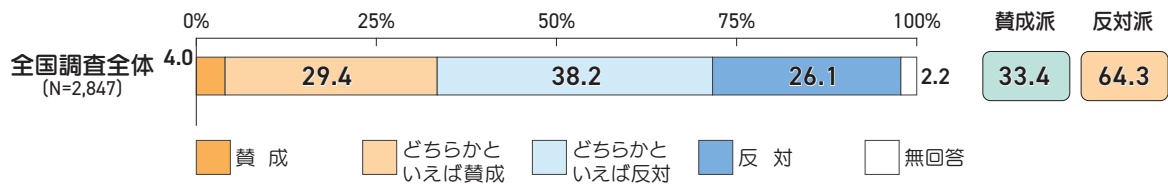
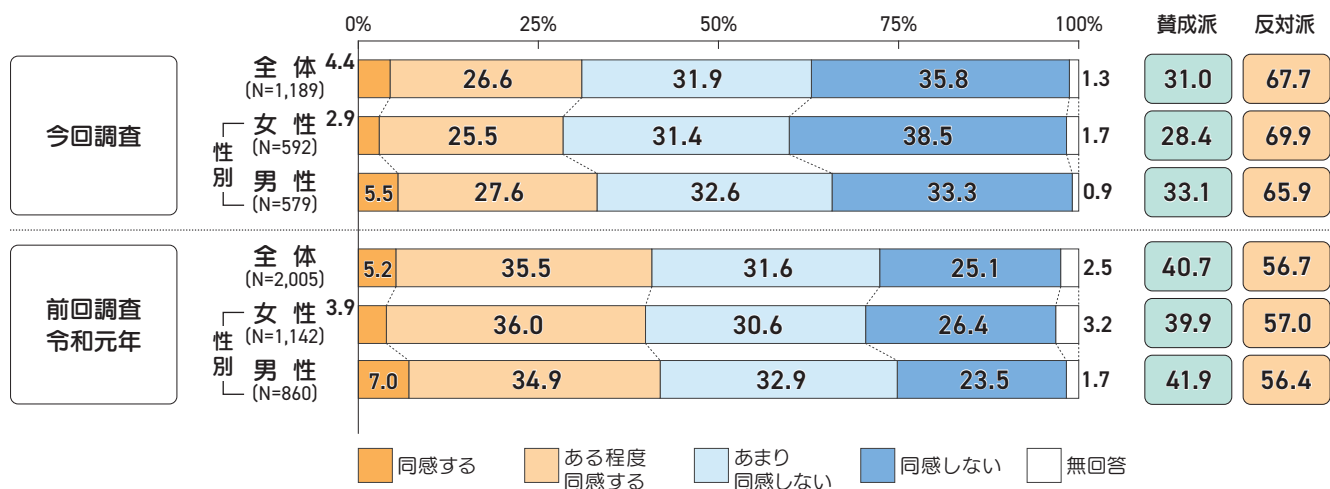
- ・『断る』は、すべての質問項目で、女性は男性よりも多い。
- ・「職場の管理職」は、『断る』が男女とも最も少なく、女性（57.1%）と男性（33.5%）の差が最も大きい。



03 家庭生活

● 性別役割分担意識

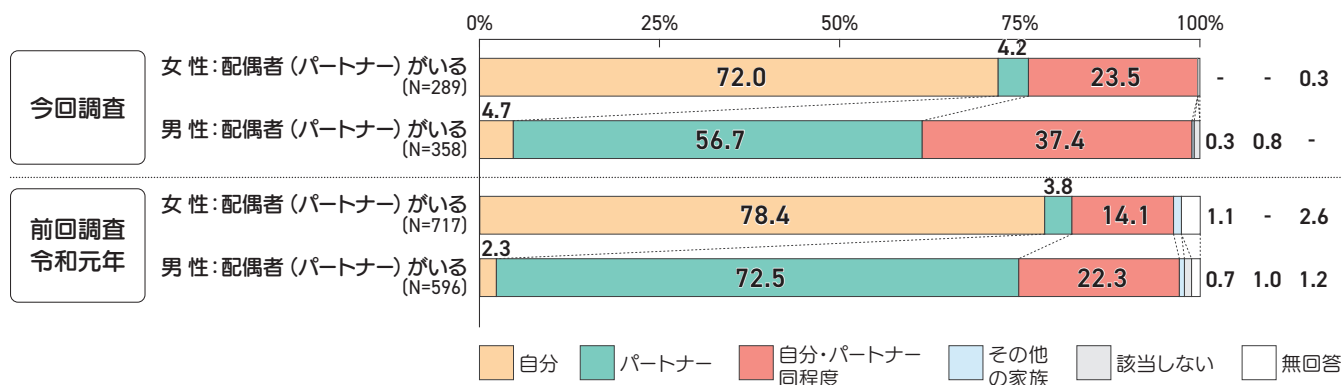
- ・「男は仕事、女は家庭」という考え方については、『反対派』が男女ともに60%以上。
- ・男女ともに『反対派』は、前回調査よりも約10ポイント増加。
- ・全国調査と比較すると、『反対派』は3.4ポイント上回っている。
- ・『反対派』を年齢別でみると、男性の70歳以上は30.7%と他の年代を大きく下回っている。



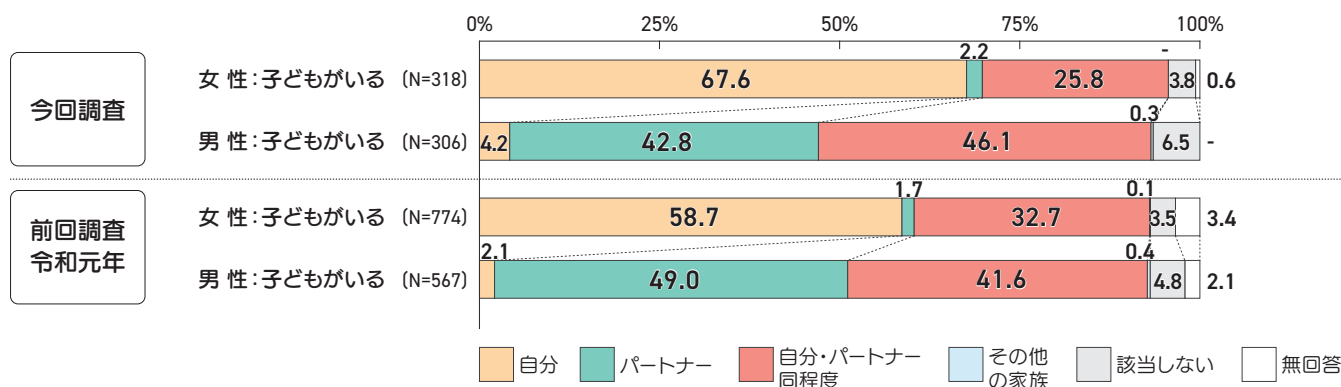
● 家庭内の役割分担の状況

- ・ 配偶者（パートナー）がいる人で「炊事、掃除、洗濯などの家事」を主にしている人は、女性は『自分』が72.0%、男性は『パートナー』が56.7%。
- ・ 「育児・子どものしつけ」は、女性は『自分』が67.6%、男性は『自分・パートナー同程度』が46.1%。
- ・ 「親の介護」は、『自分・パートナー同程度』が女性は32.9%、男性は46.1%。

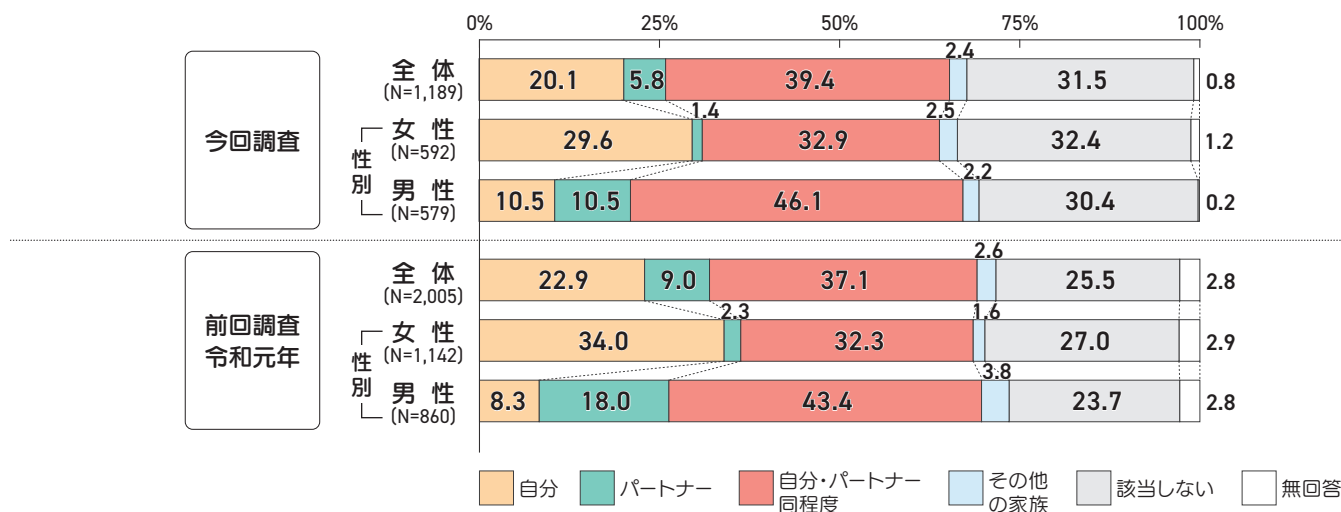
● 「炊事、掃除、洗濯などの家事」の役割分担



● 「育児・子どものしつけ」の役割分担



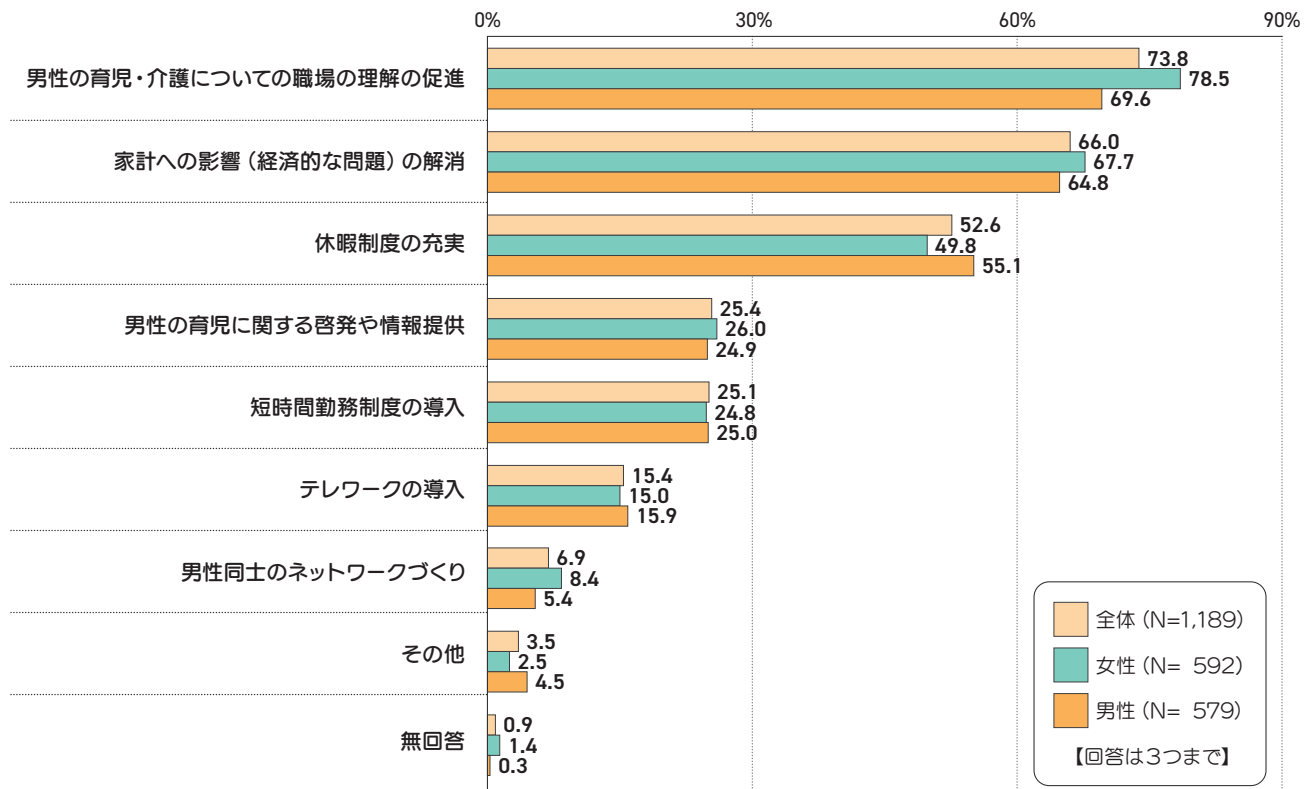
● 「親の介護」の役割分担



04 育児や介護

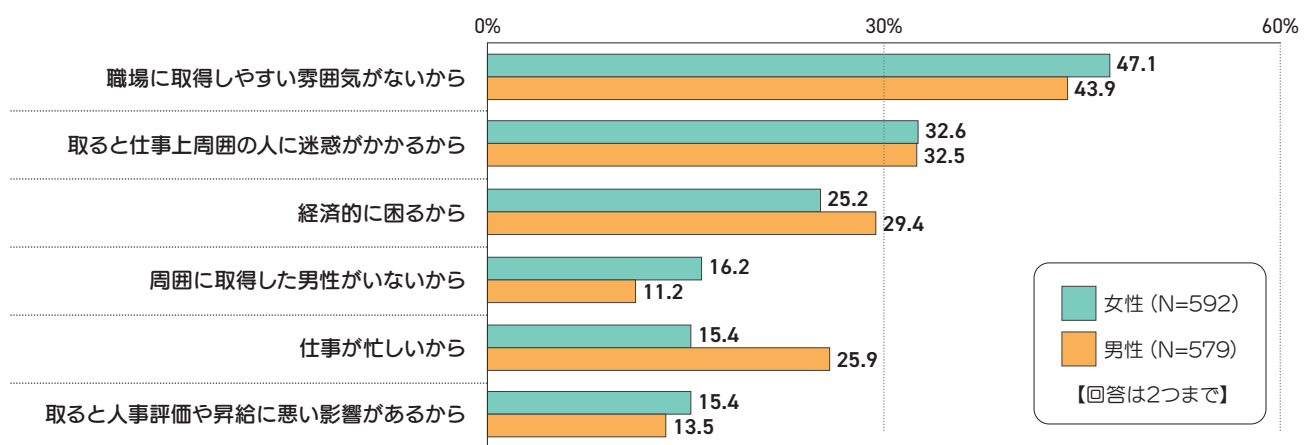
● 男女がともに育児・介護を担うために必要なこと

- ・「男性の育児・介護についての職場の理解の促進」(73.8%)が最も多く、次いで「家計への影響(経済的な問題)の解消」(66.0%)、「休暇制度の充実」(52.6%)の順。
- ・「男性の育児・介護についての職場の理解の促進」では、女性(78.5%)と男性(69.6%)の差が最も大きい。



● 男性が育児休業を取得しない(できない)理由(上位6項目)

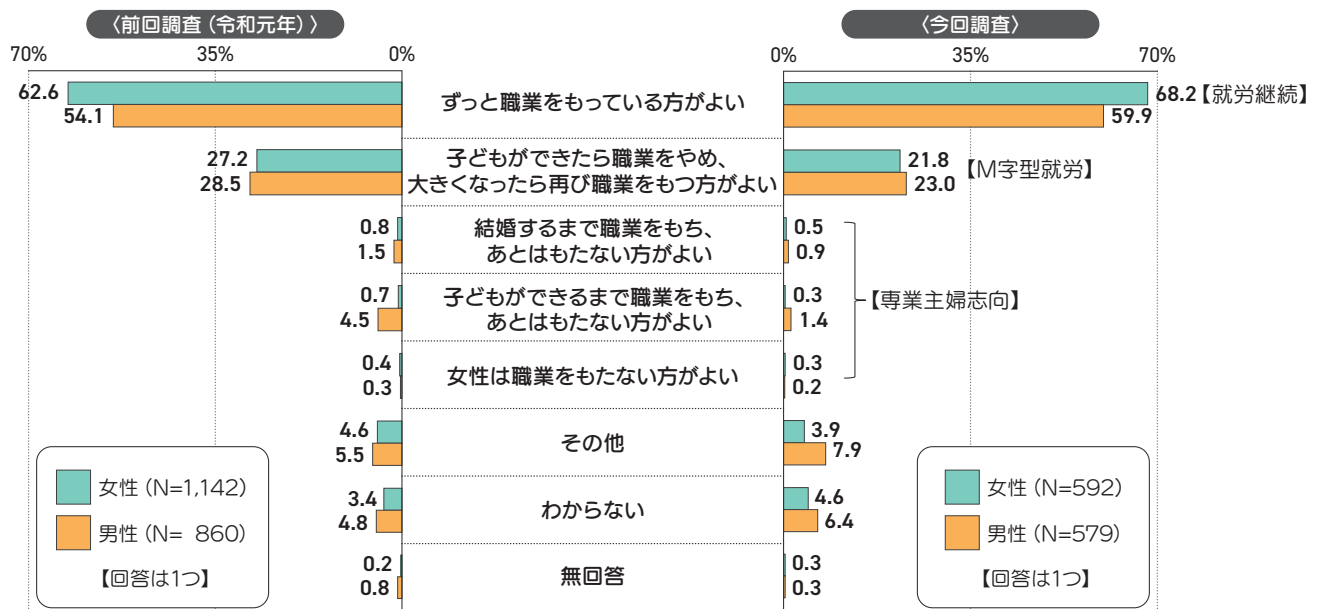
- ・「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が、男女ともに最も多い。
- ・「仕事が忙しいから」では、女性(15.4%)と男性(25.9%)の差が最も大きい。



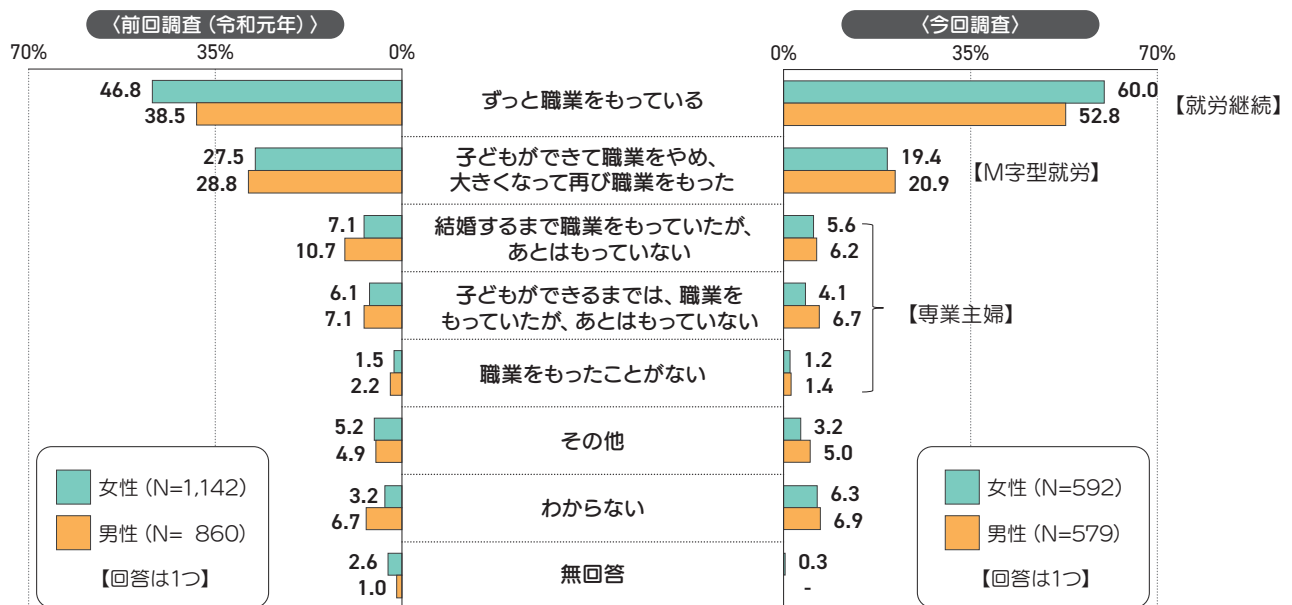
05 職業

- ・ 女性が職業をもつことについての考え方は、「ずっと職業をもっているほうがよい(就労継続)」は、女性は68.2%、男性は59.9%で、前回調査よりも男女ともに約6ポイント増加。
- ・ 「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は、前回調査よりも男女とも約5ポイント減少。
- ・ 実際の女性の働き方は、男女とも「ずっと職業をもっている(就労継続)」が最も多く、前回調査よりも女性は13.2ポイント、男性は14.3ポイント増加。
- ・ 考え方と現実を比較すると『就労継続』は、「現実」の方が女性は8.2ポイント、男性は7.1ポイント下回っている。

● 女性が職業をもつことについての考え方

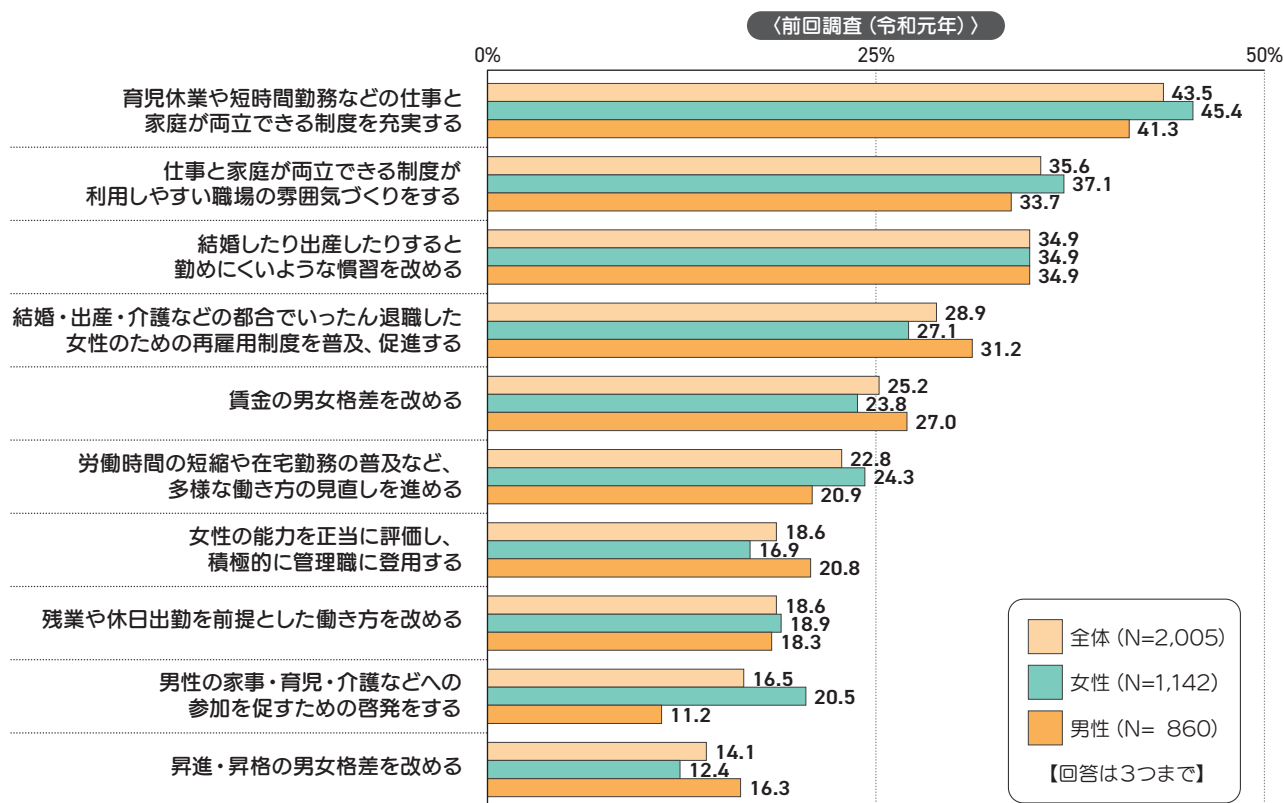
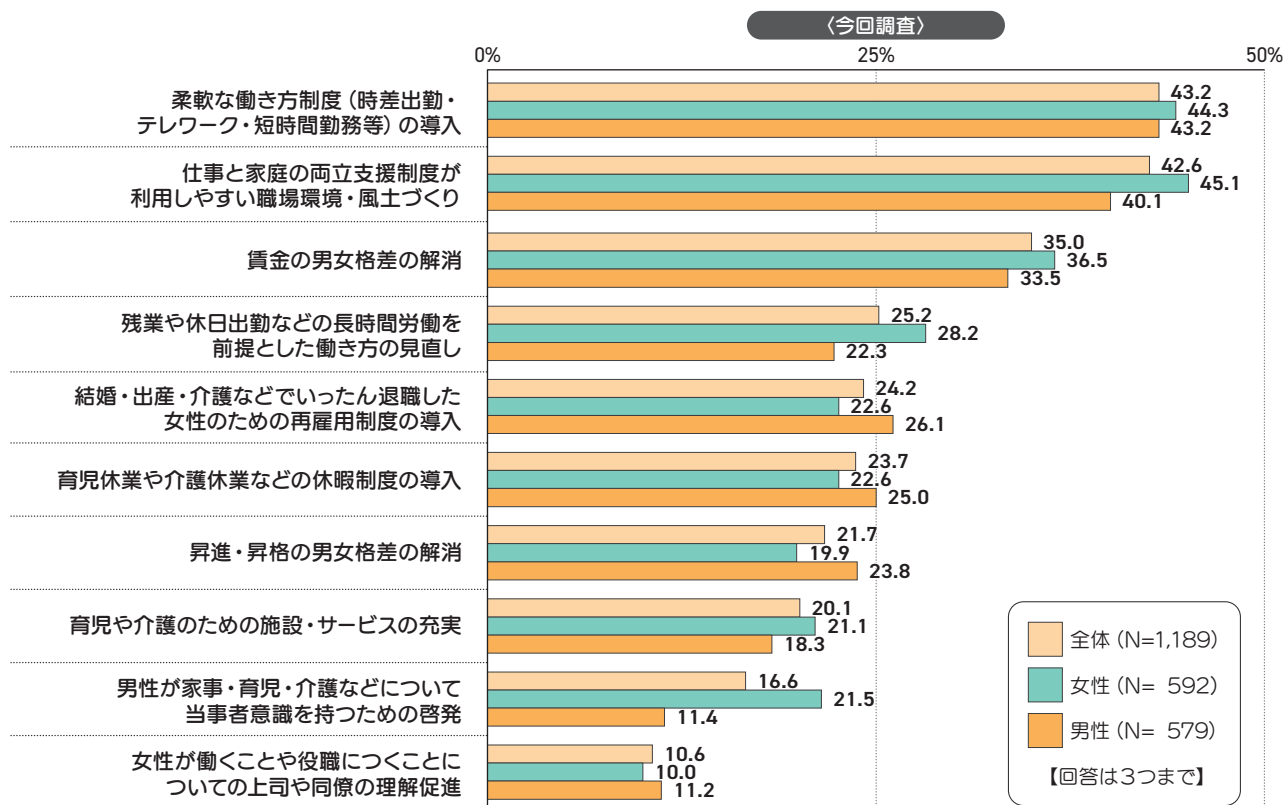


● 実際の女性の働き方について



● 女性が働き続けるために必要なこと（上位10項目）

- ・「柔軟な働き方制度（時差出勤・テレワーク・短時間勤務等）の導入」（43.2%）が最も多く、次いで「仕事と家庭の両立支援制度が利用しやすい職場環境・風土づくり」（42.6%）、「賃金の男女格差の解消」（35.0%）の順。
- ・「男性が家事・育児・介護などについて当事者意識を持つための啓発」では、女性（21.5%）と男性（11.4%）の差が最も大きい。

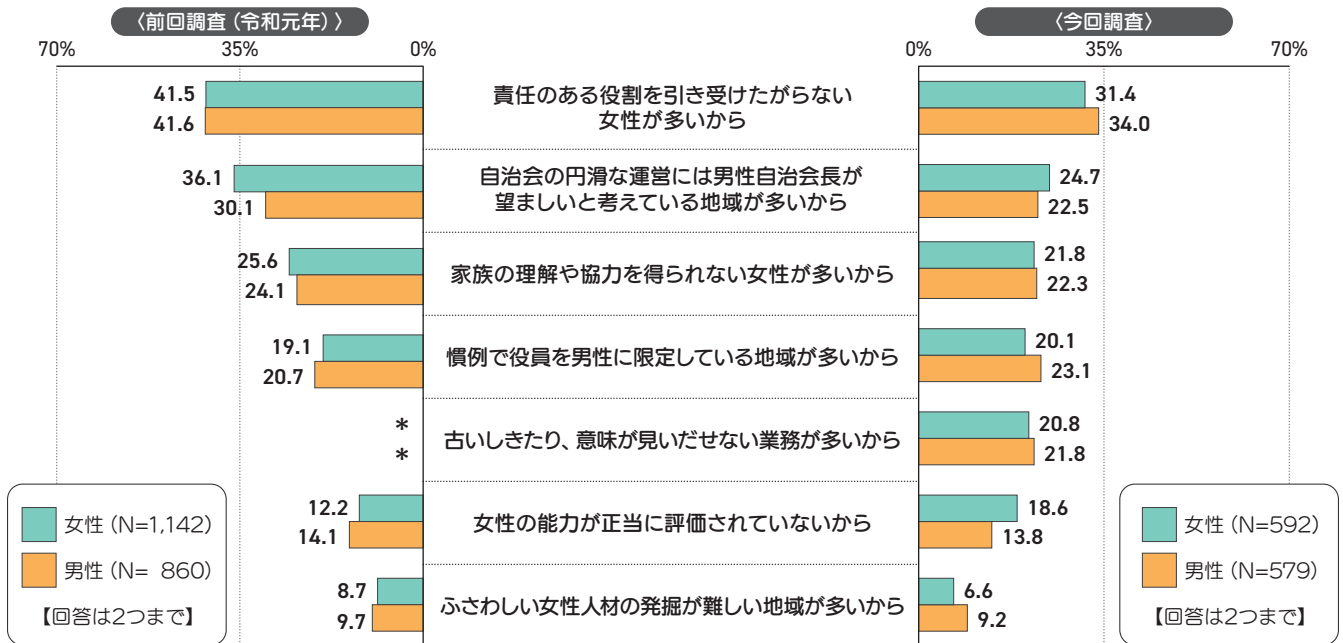


※選択肢の項目や文言が異なっているが、参考のために前回調査の上位10項目を掲載。

06 地域活動

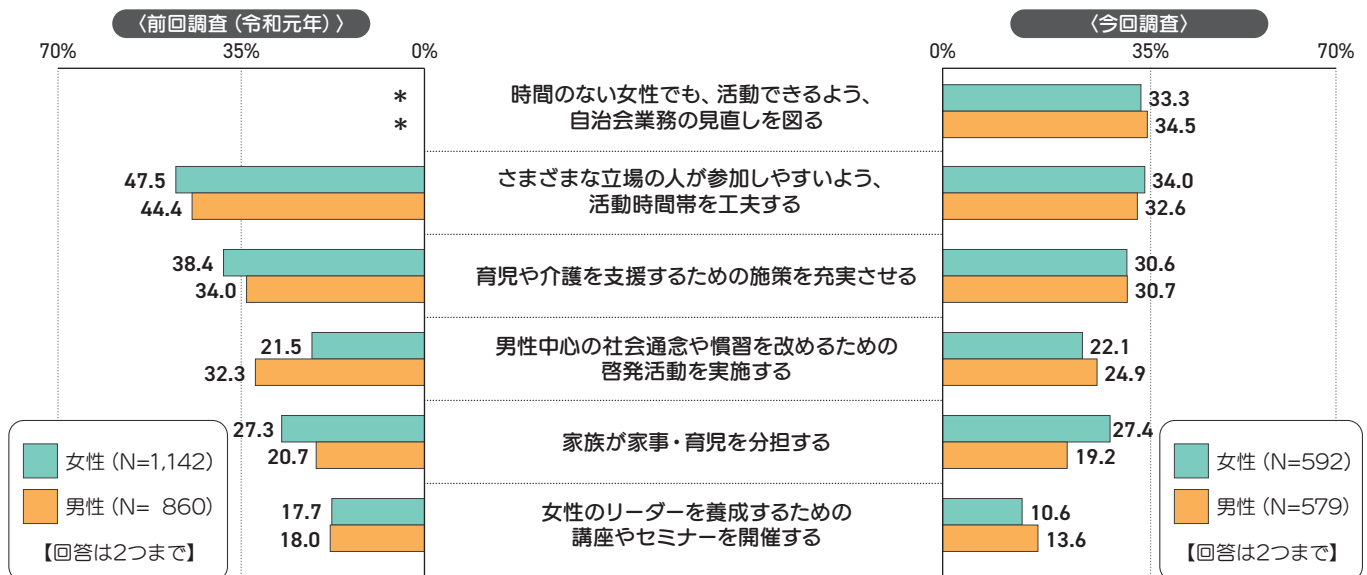
● 自治会役員に女性が少ない理由（主なもの）

- ・「責任のある役割を引き受けたがらない女性が多いから」が女性31.4%、男性34.0%で最も多い。
- ・「女性の能力が正当に評価されていないから」では、女性（18.6%）と男性（13.8%）の差が最も大きい。



● 地域の女性リーダーを増やすために必要なこと（主なもの）

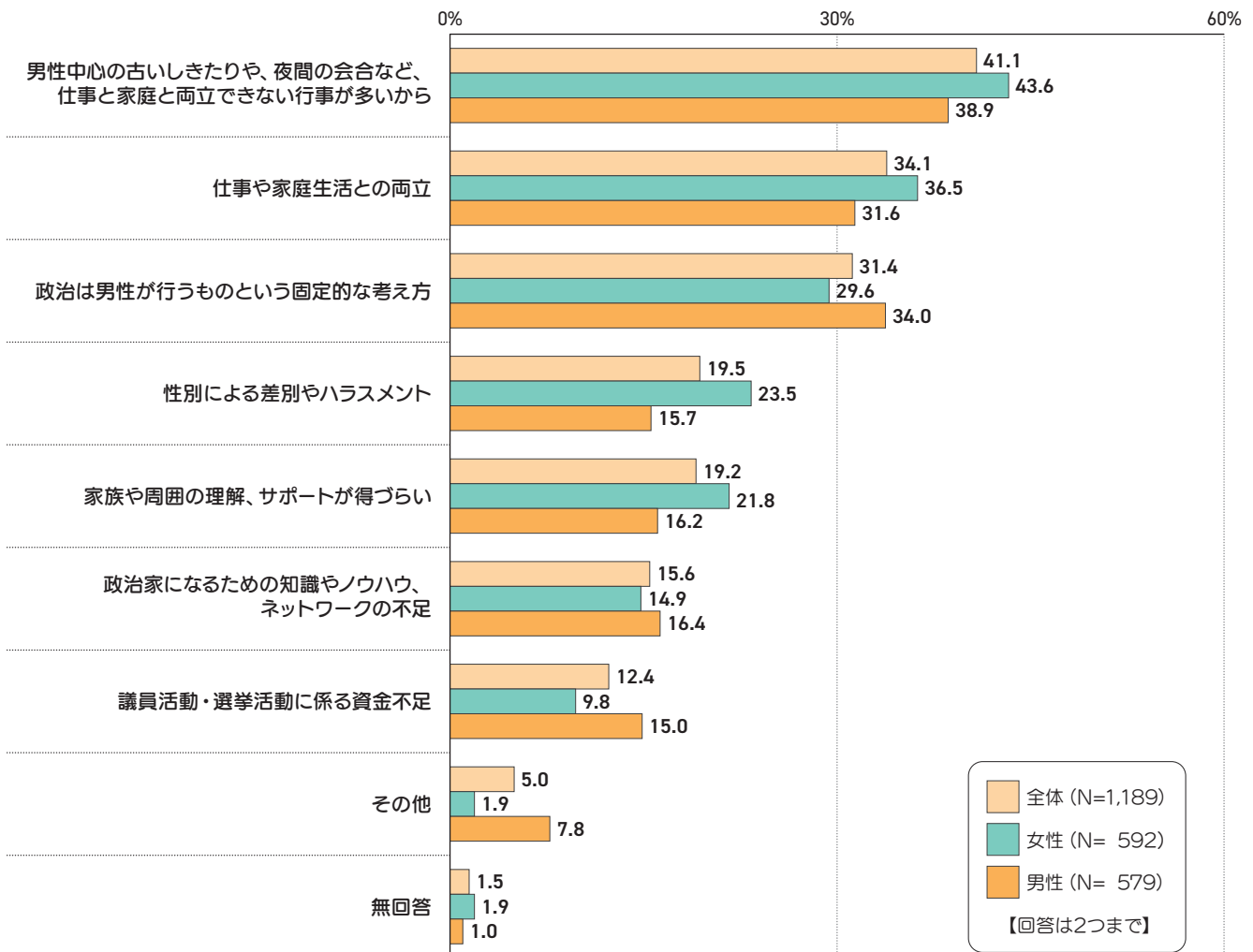
- ・「さまざまな立場の人が参加しやすいよう、活動時間帯を工夫する」が女性で34.0%、「時間のない女性でも、活動できるよう、自治会業務の見直しを図る」が男性で34.5%とそれぞれ最も多い。
- ・「家族が家事・育児を分担する」は、女性（27.4%）が男性（19.2%）を8.2ポイント上回り、差が最も大きい。



07 政治分野における男女共同参画

● 政治分野への女性の参画を阻む障壁

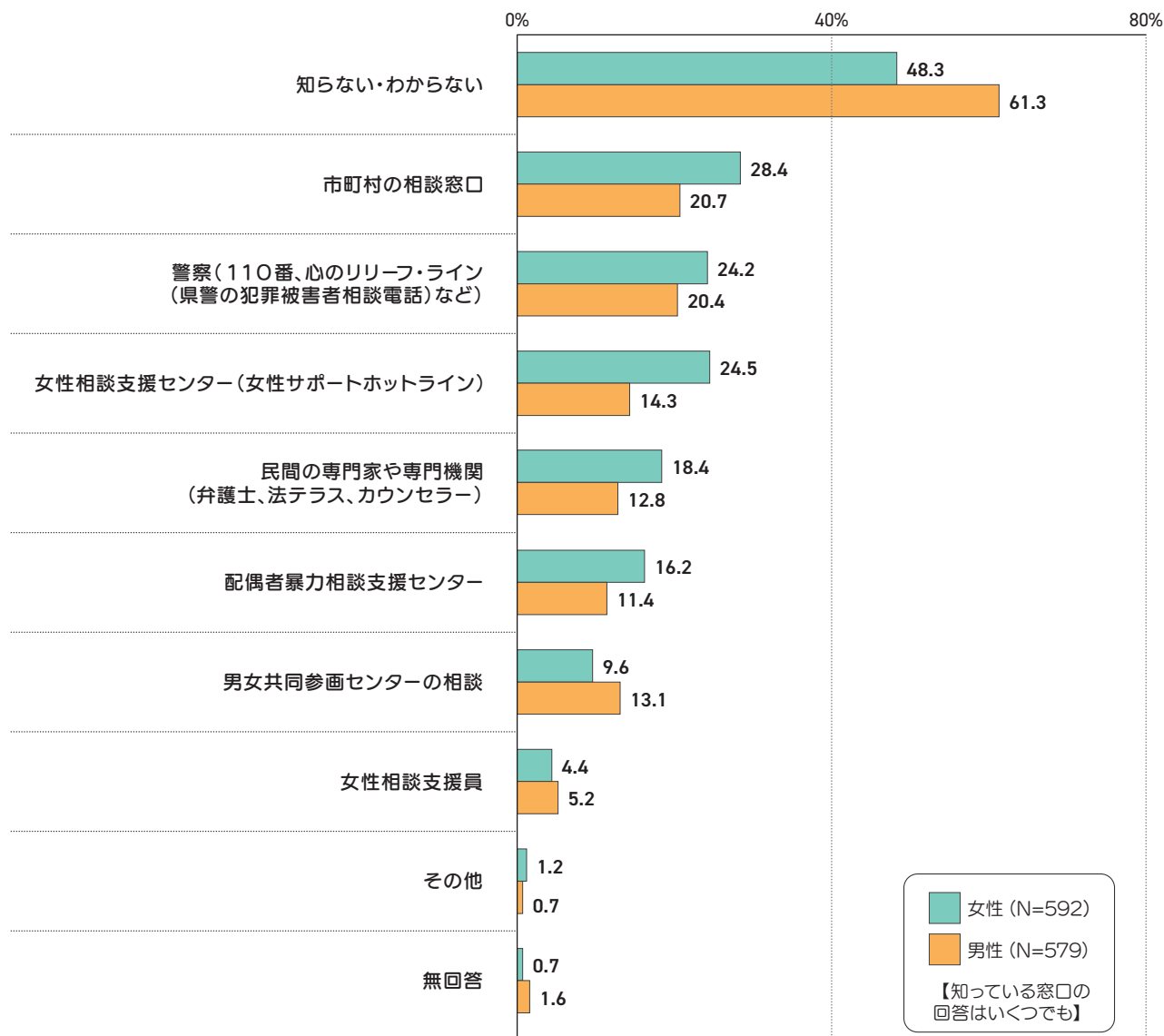
- ・「男性中心の古いしきたりや、夜間の会合など、仕事と家庭と両立できない行事が多いから」(41.1%)が最も多い。
- ・「性別による差別やハラスメント」では、女性(23.5%)と男性(15.7%)の差が最も大きい。



08 悩みを相談する体制

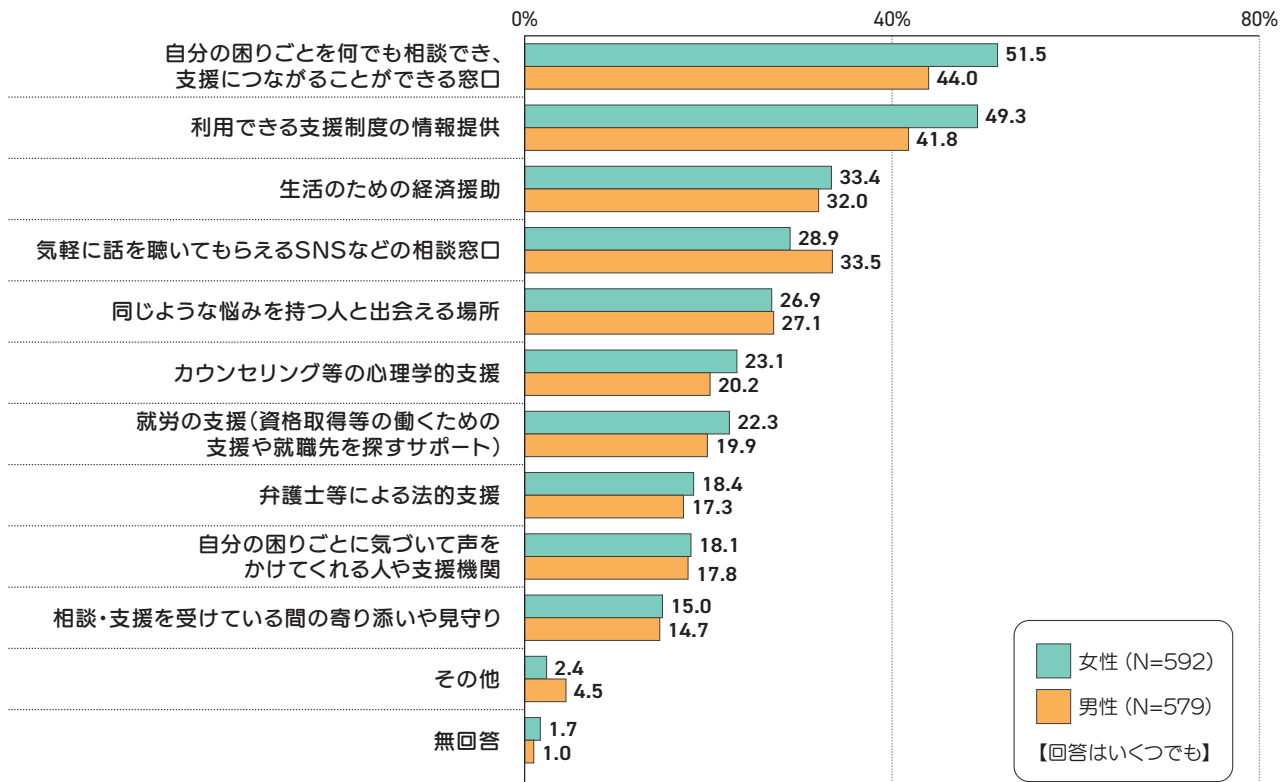
● 女性のための相談窓口の認知

- ・「知らない・わからない」が最も多い。
- ・知っている相談窓口で最も多いのは、「市町村の相談窓口」である。



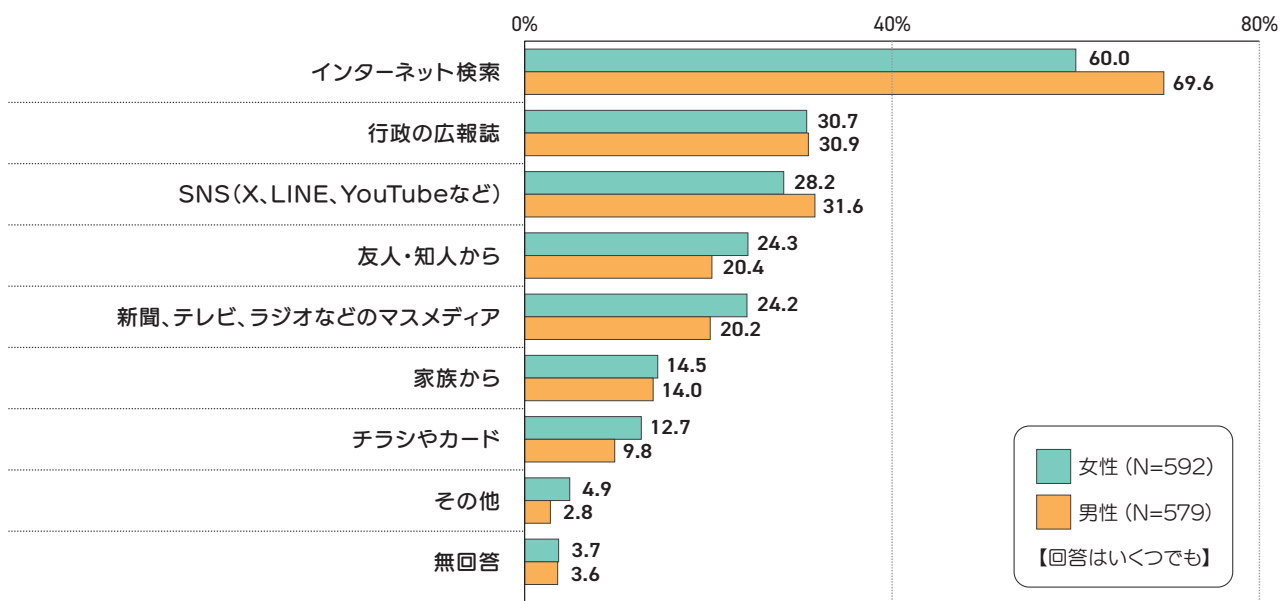
● 女性の方の悩み・困りごとを解決するために求める環境や支援

・「自分の困りごとを何でも相談でき、支援につながるができる窓口」が、男女ともに最も多い。



● 相談先情報の入手方法

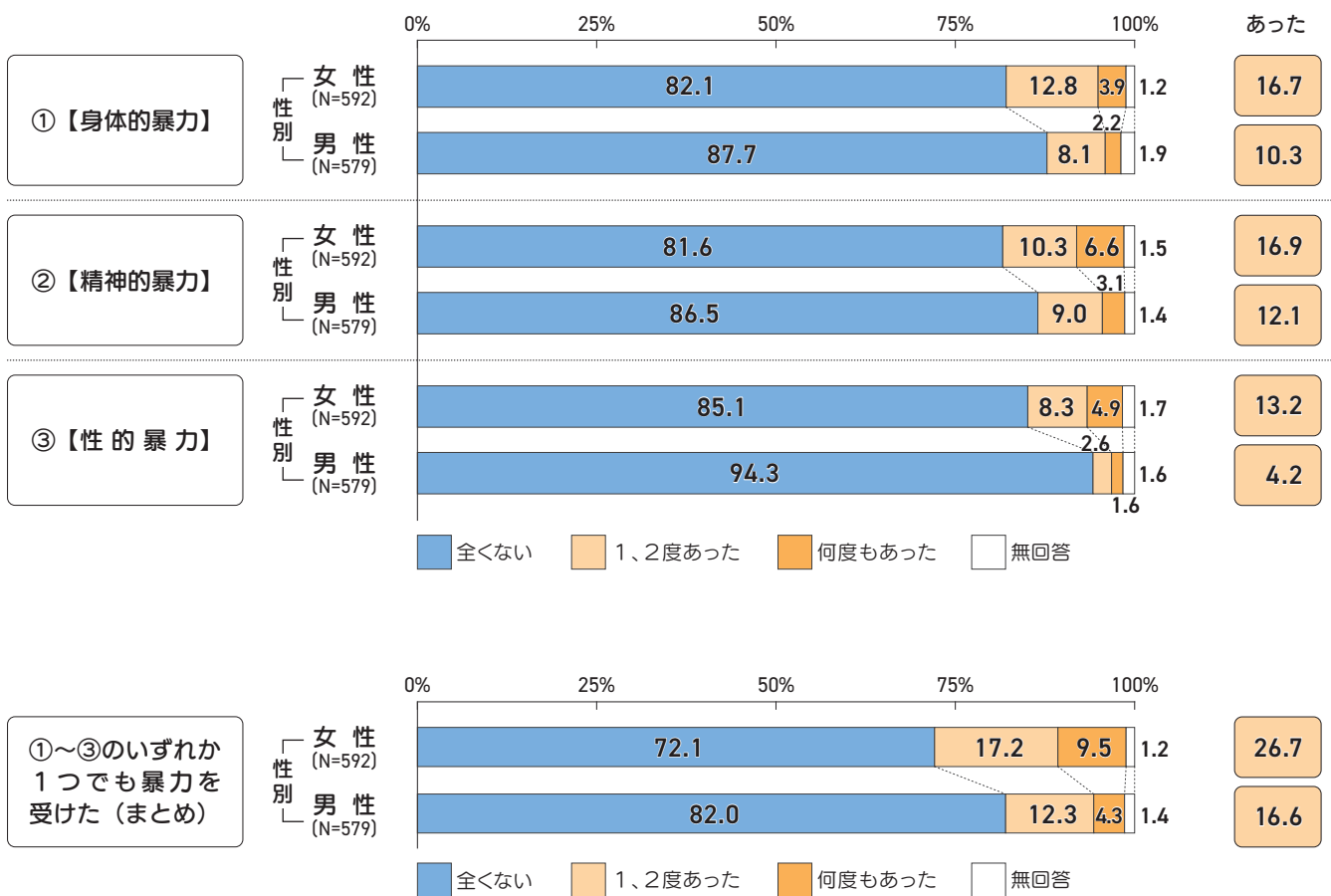
・「インターネット検索」が男女ともに最も高く、60%以上となっている。



09 配偶者などからの暴力について

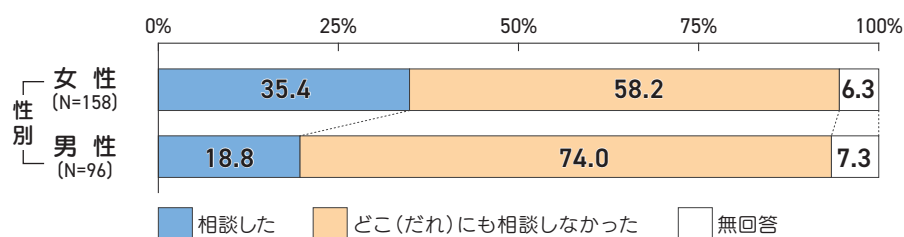
● DV（配偶者や交際相手からの暴力）の経験

- ・ 女性は、「精神的暴力」(16.9%) が最も多く、次いで「身体的暴力」(16.7%)、「性的暴力」(13.2%) の順。
- ・ 男性も、「精神的暴力」(12.1%) が最も多く、次いで「身体的暴力」(10.3%)、「性的暴力」(4.2%) の順。
- ・ 「これらの暴力のいずれか一つでも受けたことがある」は、女性は26.7%、男性は16.6%。



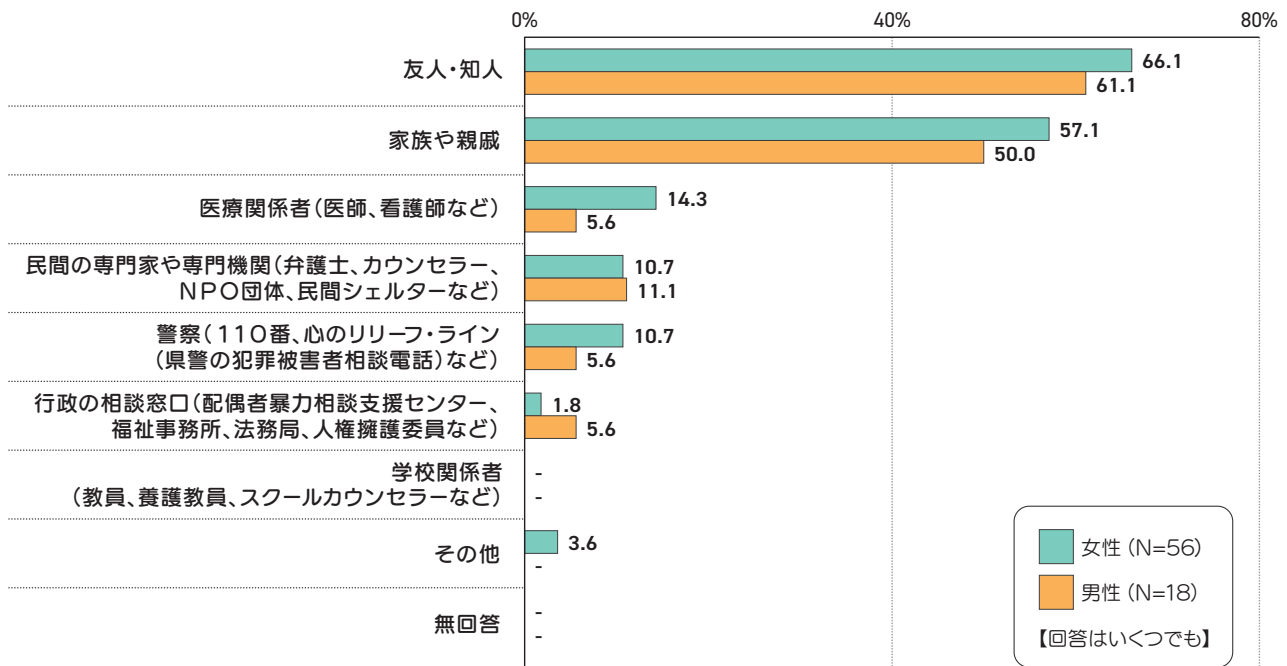
● 相談の有無

- ・ 被害経験がある人で、「相談した」は、女性では35.4%、男性は18.8%。



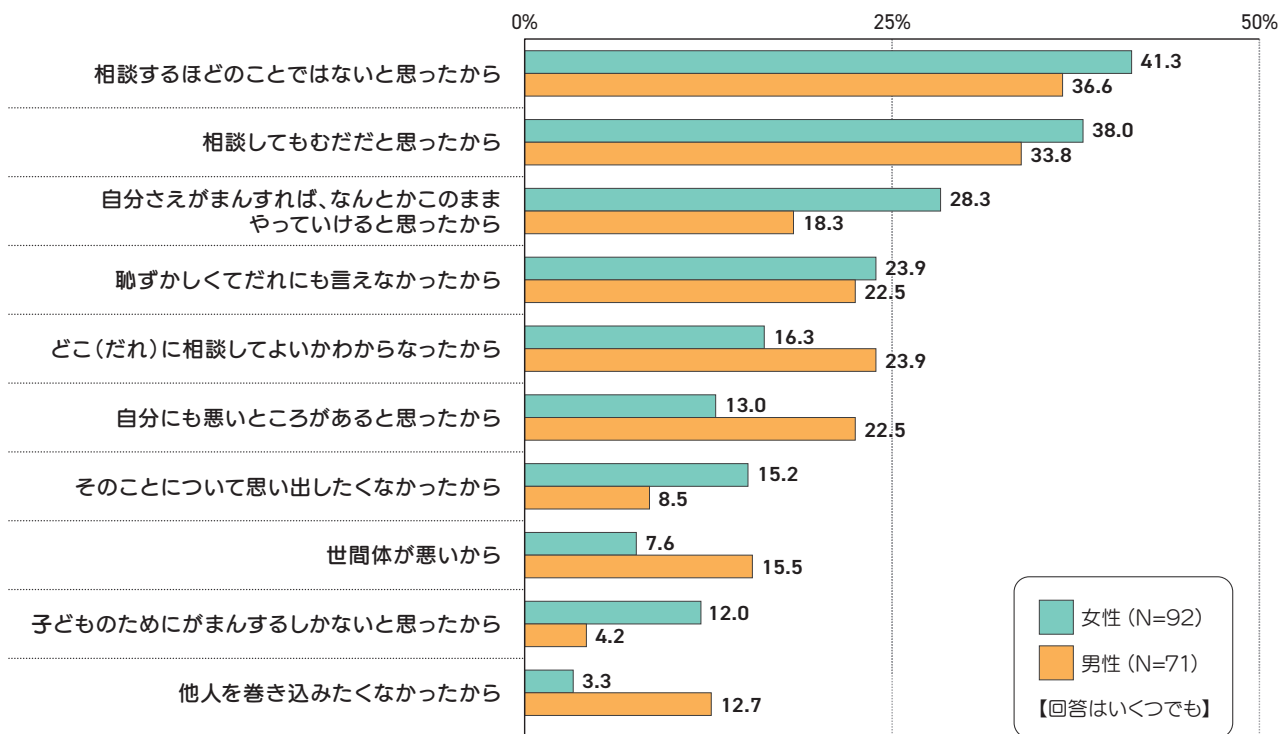
● DV（配偶者や交際相手からの暴力）の相談先

- ・ 男女ともに「友人・知人」が最も多く60%以上。
- ・ 「医療関係者（医師・看護師など）」では、女性（14.3%）が男性（5.6%）よりも8.7ポイント上回っている。



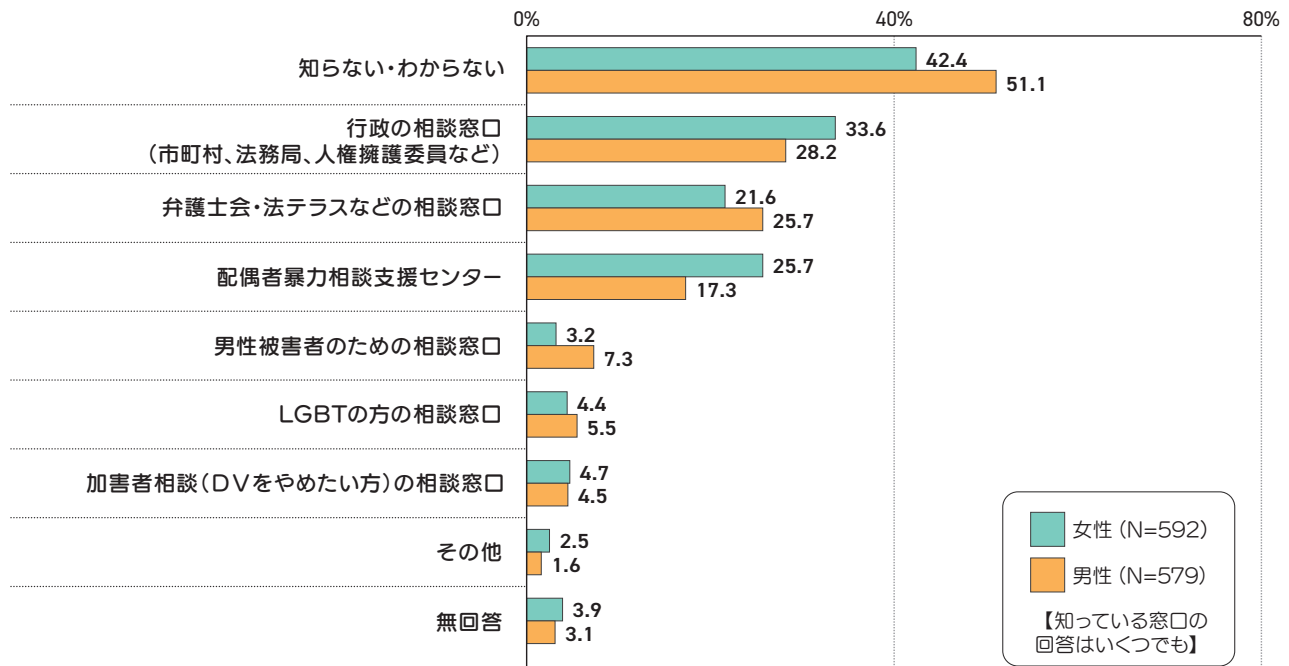
● DV（配偶者や交際相手からの暴力）を相談しなかった理由（主なもの）

- ・ 誰にも相談しなかった理由は、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多い。



● DV（配偶者や交際相手からの暴力）についての相談窓口の認知

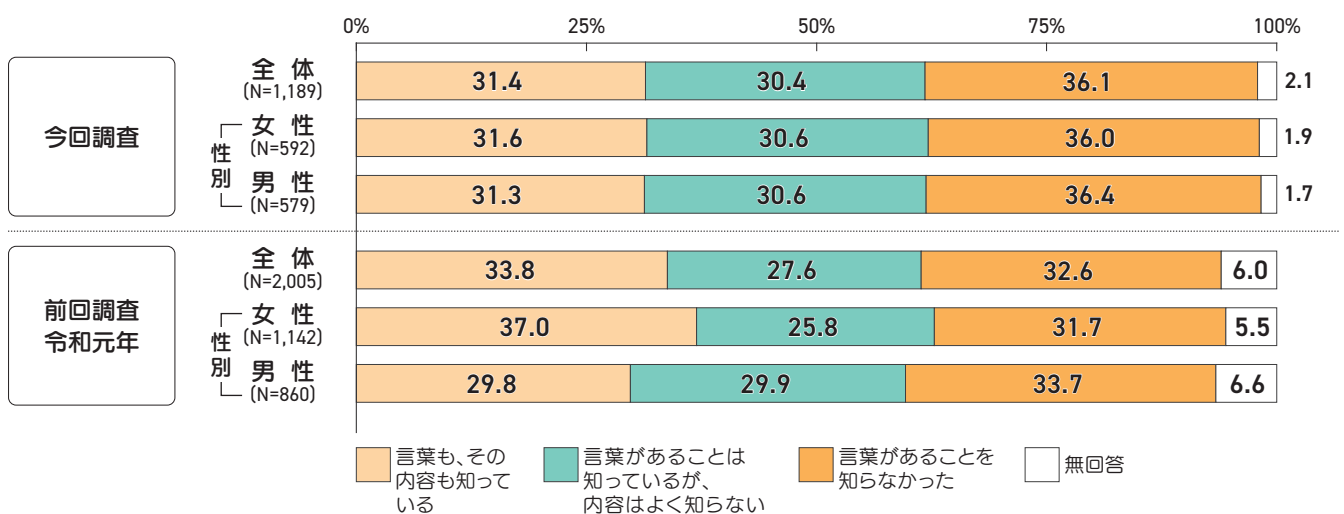
・「知らない・わからない」は、女性（42.4%）、男性（51.1%）。



● デートDV（交際相手からの暴力）の認知

・「言葉も、その内容も知っている」が女性31.6%、男性31.3%。

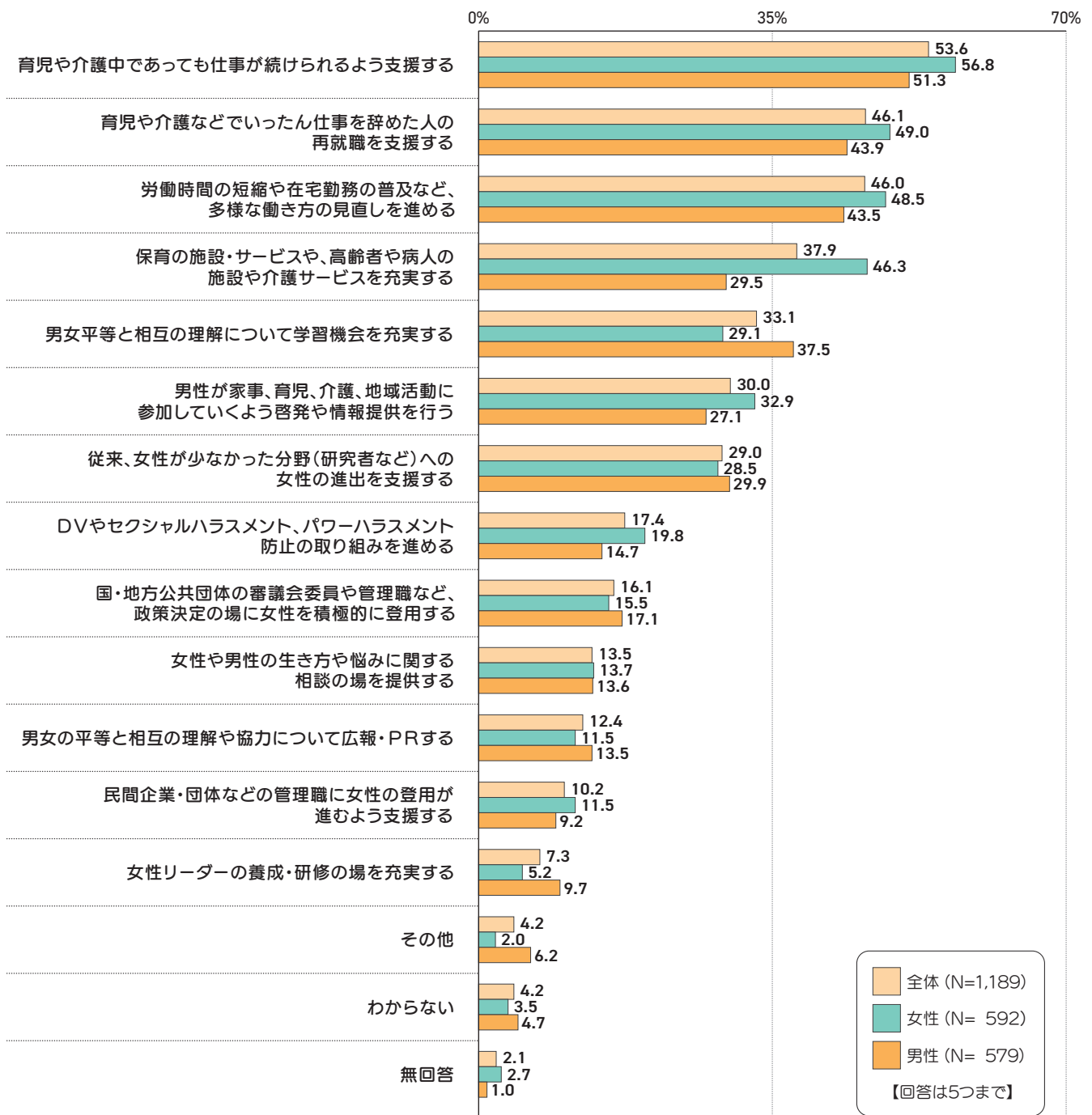
・女性では、前回調査よりも「言葉も、その内容も知っている」は5.4ポイント低下。



10 男女共同参画社会の実現

● 「男女共同参画社会」を実現するために行政が今後力を入れること

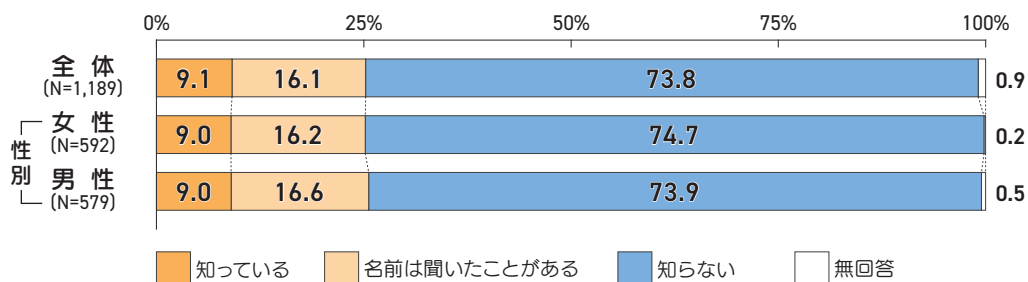
- ・「育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」(53.6%) が最も多く、次いで「育児や介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(46.1%)、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、多様な働き方の見直しを進める」(46.0%)の順。
- ・「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」は女性(46.3%)が男性(29.5%)を16.8ポイント上回り大きな差がある。



11 男女共同参画センター

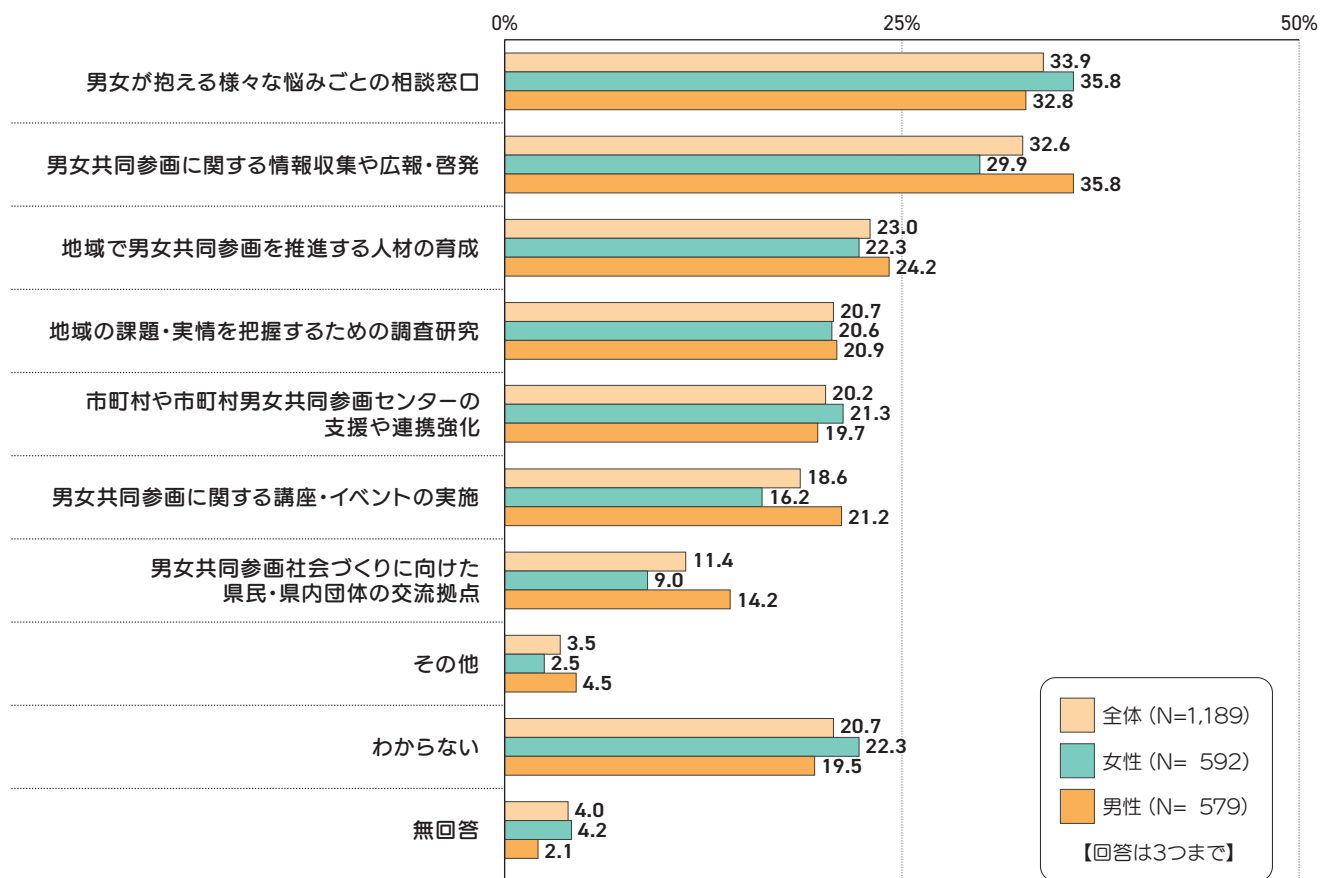
● 男女共同参画センターの認知

- ・「知っている」または「名前は聞いたことがある」は、25.2%となっている。
- ・性別での大きな差はない。



● 男女共同参画センターに期待する役割

- ・「男女が抱える様々な悩みごとの相談窓口」(33.9%) が最も多く、次いで「男女共同参画に関する情報収集や広報・啓発」(32.6%) の順。
- ・「男女共同参画に関する情報収集や広報・啓発」では、女性(29.9%)と男性(35.8%)の差が最も大きい。



福岡県行政資料	
分類記号 JD	所属コード 5200408
登録年度 06	登録番号 0006

男女共同参画社会に向けての意識調査 〈概要版〉

令和7年3月

発行／福岡県人づくり・県民生活部男女共同参画推進課
〒812-8577 福岡市博多区東公園7番7号
TEL. 092-643-3391